

ドイツは民主主義を守り通せるのか 極右政党AfD躍進の背景

池永記代美 (ベルリン・女の会)

2024年11月6日、トランプ氏が米国大統領に当選し、世界に衝撃が走りました。奇しくも同日、ドイツでは社会民主党 (SPD) 主導の三党による連立政権が財政政策を巡り衝突し、任期を全うせず崩壊。これを受けて2月23日、連邦議会選挙が行われました。現時点では、得票率28.6%で第一勢力となったキリスト教民主・社会同盟 (CDU・CSU) のメルツ氏が次期首相になることが確実視されています。今回の選挙では、この政権交代と共に、極右政党「ドイツのための選択肢 (AfD)」が得票率を20.8%と倍増させ、第2党に躍進したことも注目されました。ナチの過去から学び、民主主義を守ることに注力してきたドイツで、なぜ、極右勢力が強くなってしまったのでしょうか。

AfD はユーロ危機で欧州全体が揺れていた2013年に設立された若い政党で、2015年前後、ドイツに多くの難民が庇護を求めてやって来た「難民危機」で支持率を伸ばしました。「税金はドイツ人のために」、「難民が増えれば犯罪が増える」など、分かりやすい言葉で人々の不満や不安の受け皿になったのです。今回の選挙戦では、難民だけでなくドイツ国籍を持つ移民も国外追放の対象にすると、過激な排外主義の素顔を露わにしました。

今、ドイツが抱える課題はインフレや景気対策、気候保護、ウクライナでの戦争の解決などです。しかし昨年半ば頃から難民による無差別殺傷事件が相次いだこともあり、移民・難民問題が選挙戦の争点になってしまいました。AfD が得意とする土俵で選挙を闘うことになったのは、難民に寛容なイメージのある SPD (得票率16.4%) や緑の党 (得票率11.6%) に不利に働きました。これには、一部メディアが難民による事件を過剰に取り上げたことが影響したとの指摘もあります。

さて、今回の選挙では約5人に1人がAfDに投票したことになりますが、それはどんな人たちなのでしょう。週



右傾化反対集会にも登場する人気ラッパーが「民主主義を守るために選挙に行こう」と呼びかけるポスター。QRコードから、移民や専門家にインタビューする動画に入れる。こうした呼びかけもあり、今回の投票率は82.5%と、前回より6.1ポイント上がった。(筆者撮影)

刊誌『Spiegel』によると、「35歳から44歳、学歴が低く、経済状況の良くない男性労働者」です。また、ベルリンを除く旧東独地域にあたる5つの州すべてでAfDは30%を優に超える得票率を獲得し、最大勢力となりました。東西ドイツ統一後35年近く経っても存在する経済格差や、西側を基盤とする既存政党への不信感がその理由だと言われています。しかし今回AfDの躍進を可能に

したのは、旧西独地域での得票数の伸びでした。今までSPDの牙城だった工業地帯で、AfDに票が流れたのです。グローバル化、



CDU・CSUは、現政権が制定した「性の自己決定権」に関する法律改悪を目指している。2月16日、ベルリンで性の多様性を守れとアピールするデモが緊急に行われ、5000人近くが連邦議会前に集まった。(筆者撮影)

グリーン化、デジタル化などの産業構造の変換で、いつ職を失うかわからない—そうした人々の漠然とした不安を、AfDは「職や住居を奪う移民や難民」への反感に仕向けて行ったのです。もう一つの要因は、今まで投票に行かなかった200万人の有権者から票を得たことです。トランプ大統領の側近イーロン・マスク氏や米国ヴァンス副大統領のAfD支持表明などに乗せられた人もいるかもしれません。

複数の政治学者の指摘によると、AfDの排外主義的価値観に共鳴して同党を選んだのは有権者の約10%とみてよいそうです。そして、戦後から一貫して、ドイツ人の約10%はこのような価値観を持っているとのこと。つまり、今回AfDを選んだ有権者の半分は、確固とした信念からではなく、上に述べたような漠然とした不安から選んだと言えます。

実は投票日のひと月ほど前から、ドイツ各地でいくつもの大規模なデモが行われました。きっかけは1月末、AfDの賛成を得なければ採決されないことが自明だったにも関わらず、CDU・CSU会派が難民政策厳格化を求める決議を連邦議会を通したことでした。AfDとは協力関係を結ばないと約束していたメルツ CDU党首のこの行動は、民主主義政党は極右政党と組まないというタブーを破ったもので、市民への裏切りでもありました。デモ参加者たちは、AfDに引きずられて右旋回するCDU・CSUに強烈な警告を発しましたが、その声はどれだけメルツ氏に届いたでしょうか。

新しい政権に求められているのはAfD紛いの政策ではなく、経済を活性化し、インフレを抑え、職や住まいを失うかもという不安を人々が体感できる形で払拭し、AfDに投票した有権者を取り戻すことです。もしそれに失敗すれば、近い将来、AfDが議会で第一党になる恐れがあります。次々回の連邦議会選挙は2033年に行われる予定ですが、それはヒトラー内閣が成立して100年目に当たります。歴史と向き合うことを主体にしてきたドイツの政治・人権教育の見直しが迫られているのかもしれません。